

# ベトナム・ロータス・ファンド (愛称：ロータス)

追加型投信／海外／株式

## 交付運用報告書

第4期(決算日 2021年1月19日)  
(作成対象期間 2020年1月21日～2021年1月19日)

第4期末(2021年1月19日)	
基準価額	12,676円
純資産総額	2,840百万円
(2020年1月21日～2021年1月19日)	
騰落率	24.4%
分配金合計	200円

(注1) 以下本書において、基準価額及び分配金は1万口当たりで表記しています。

(注2) 騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「ベトナム・ロータス・ファンド」は、このたび、第4期決算を行いました。ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。

当ファンドは、マザーファンドの受益証券を通じて、主としてベトナムの取引所に上場しているベトナム株式、ならびに世界各国・地域(日本を含む)の取引所に上場しているベトナム関連企業の株式等に投資することにより、中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行いました。

今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 照会先

ホームページアドレス：<http://www.fivestar-am.co.jp/>

お客様デスク：03-3553-8711

(受付時間：委託会社の営業日の午前9時～午後5時まで)

## ファイブスター投信投資顧問株式会社

東京都中央区入船1-2-9 八丁堀MFビル8階

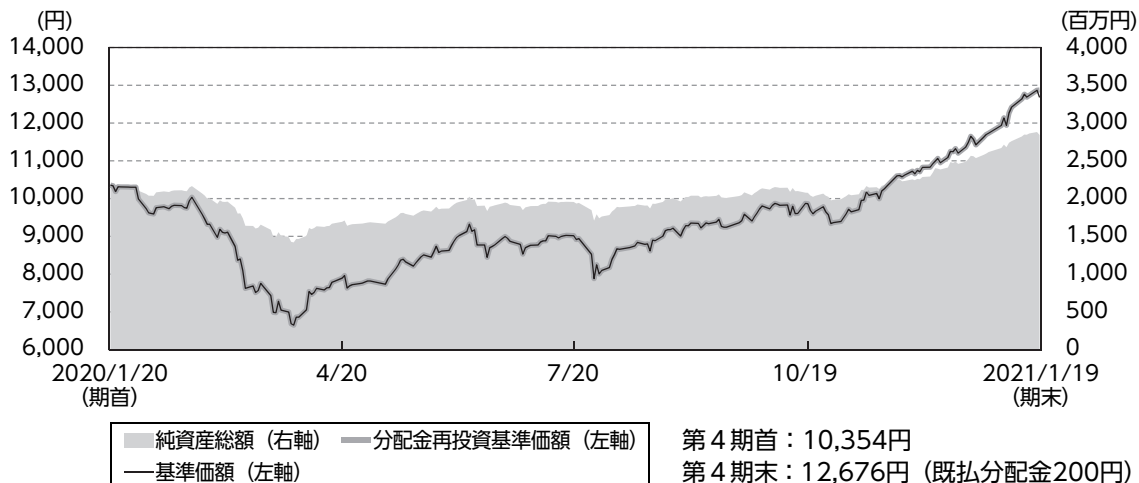
当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供することを定めております。上記PCサイトにアクセスし、「ファンドを検索する」等から、当ファンドのページを表示させることにより、運用報告書(全体版)を閲覧及びダウンロードすることができます。なお、ご請求いただいた場合には交付いたしますので、販売会社までお問い合わせください。

[運用報告書の表記について]

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率および騰落率は小数点第2位または小数点第2位未満を四捨五入しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値と一致しない場合があります。ただし、単位未満の数値について小数表記する場合があります。
- ・－印は組入れまたは売買がないことを示しています。

## ★運用経過

### ☆基準価額等の推移



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、2020年1月20日の値を基準価額に合わせて指数化しています。

## ☆基準価額の主な変動要因

### <上昇要因>

- ・2020年4月時点では、新型コロナウイルス感染拡大の沈静化とマクロ経済悪化の改善はいつごろ実現するか全く予想がつかない状況でした。一方、先進国での感染拡大のピークアウトと大型の経済支援策、また有効性が期待される抗ウイルス薬「レムデシビル」や世界中で行われているワクチンの開発といった明るいニュースも伝えられました。その結果、3月に大幅下落した世界の主要株式市場は、4月には不安定な動きながら上昇しました。
- ・ベトナムは新型コロナウイルス感染拡大に対する徹底的な対策を早期に実施した事により、感染者数の合計は4月末時点で300人に満たない状況でした。これはベトナム政府の判断力と政策実行力の高さを示す見事な結果と言え、それを評価した投資家からの買いによって、4月にはベトナムVN指数は16.1%上昇しました。
- ・2020年5月に入っても、世界的には新型コロナウイルス感染拡大には改善が見られませんでした。相変わらずベトナムは累計感染者数を極めて少ない人数に抑える事に成功しました。この国内感染への対応力が評価された事によって、ベトナムVN指数は4月の大幅上昇に続いて、5月にも12.4%上昇しました。
- ・2020年8月には、アメリカの中央銀行であるFRB（米連邦準備理事会）は長期に渡る金融緩和を示唆したことから、米国株式市場は上昇基調を維持し、ナスダック総合指数に加えてS&P500指数も、月末にかけて過去最高値を更新しました。ベトナムVN指数はこの米国株式市場の上昇の恩恵を受ける形で10.4%上昇しました。
- ・ベトナムでは7月にダナン都市を中心に新型コロナウイルス感染の第2波が発生し、8月末には新型コロナウイルス累計感染者数が全土で1,000人を越えました。しかし、徹底した押さえ込み策が奏効し、日々の新規感染者数は9月には数人程度となり、投資家心理が好転しました。その結果ベトナムVN指数は、9月には2.7%上昇し、900ポイントを回復しました。
- ・新型コロナウイルスの制圧に成功したベトナムでは、11月の鉱工業生産指数は昨年同月比で9.2%上昇しました。この様に経済活動が復旧していることから、ベトナム株式市場は11月には力強い上昇基調を保ち、月末近くにはベトナムVN指数は大台の1,000ポイントを越えました。上昇の主役は銀行株でしたが、建設、鉄鋼、証券、繊維、肥料、保険といった業種も上昇しました。その結果ベトナムVN指数は、11月には8.4%上昇しました。
- ・2020年12月には、米国では大統領選挙人による投票でジョー・バイデン前副大統領が過半数の票を集めて、次期大統領として選出されました。また、紆余曲折の末9,000億ドル規模の追加経済対策案が上下両院を通過し、これにトランプ大統領が署名したことから正式に法案が成立しました。さらに、月中に行われた米国のFOMC（連邦公開市場委員会）は、明確な景気回復が見られるまで、月に1,200億ドルの量的緩和を継続すると発表しました。これらに加えて英国とEU（欧州連合）は通商交渉で歴史的な合意に至り、英国がEUからの離脱を終了する2021年1月以降において大きな混乱が回避されました。世界的に株価が上昇し、ベトナムVN指数も前月からの上昇基調を維持し、12月には10.1%上昇し、節目の1,100ポイントを越えて歴史に残る2020年の1年を終えました。

## <下落要因>

- ・2020年1月下旬には、新型コロナウイルス感染者が中国の武漢を中心に急増し始めました。月末には、この感染者の発生が中国で8,000人近くに上ると共に、日本も含めたアジア諸国のみならず欧米にも拡がり、WHO（世界保健機関）が緊急事態を宣言するに至りました。この感染者拡大は、定期的に中国での春節休暇と重なった為に、武漢からの旅行者の増加が事態の悪化に拍車をかける結果となりました。この感染拡大の影響を受けて春節明けの1月30日と31日にベトナムVN指数は大きく値を崩しました。
- ・2020年2月に入ると新型コロナウイルスの流行が、日本や韓国などのアジア諸国に留まらず、イタリアやイランにも広がり、パンデミック（世界的大流行）のリスクが意識されるようになりました。これによって、米国株式市場は記録的な下落となり、その影響を受けてベトナムVN指数は900ポイントを割り込む下落となり、2月には5.81%下落しました。
- ・2月末の新型コロナウイルスの世界の感染者数は8万6千人でしたが、この数字が3月末にはその10倍の約86万人に膨れ上がり、その後も感染者数の増加ペースは加速を続けました。WHOはこの感染拡大に対してパンデミックを宣言するに至りました。世界中で、外国からの入国制限や入国者の隔離、さらには外出禁止措置など、防疫措置が強化され、経済活動の委縮が懸念されました。これに対応して、FRB（米連邦準備理事会）は3月中に2度の緊急会合を開き、合計1.5%の政策金利引き下げを行い、米国政策金利は4年3ヶ月ぶりにゼロ金利となりました。中国人民銀行は預金準備率の引き下げを行い、EU（欧州連合）も総額370億ユーロ規模の投資促進策の導入を発表するなど、各国当局から景気刺激策が相次いで発表されました。しかし、このような全世界的な対応策もむなしく、一向に改善の見られない感染拡大とそれに伴う世界的な経済活動の低下によって、3月の米国株式市場は記録的な大幅下落となりました。新型コロナウイルスの感染拡大に加えて、原油の減産合意の為の会合が決裂し、サウジアラビアが原油増産へと方針転換したことでWTI原油先物価格は月中に54.4%下落しました。この世界的な新型コロナウイルス感染の拡大の影響を受けて、ベトナムVN指数は3月には24.9%下落しました。これは、外国人投資家が月中にベトナム株を7.8兆ドン売り越した影響が大きかったと考えられます。また、下落の大きかった銘柄は大型株に顕著に見受けられました。
- ・ベトナムVN指数は2020年7月の前半は上昇基調でしたが、中旬に新型コロナウイルス感染者が主として中部のダナン都市で発生し、下落に転じる結果となりました。ベトナムでは6月末時点の累計感染者数が約350人と新型コロナウイルスの押さえ込みに成功していましたが、7月末にはこれが約560人に急増したことから、投資家心理を悪化させました。ベトナムVN指数は、銀行株や大型株の下落の影響が大きく、7月には3.2%下落しました。

# ☆ 1 万口当たりの費用明細

項目	第 4 期		項目の概要
	(2020年1月21日～2021年1月19日)		
	金額(円)	比率(%)	
(a) 信託報酬	197	2.16	(a) 信託報酬＝〔期中の平均基準価額〕×信託報酬率 期中の平均基準価額は9,124円です。 信託報酬に係る消費税は当(作成)期末の税率を採用しています。 委託した資金の運用、基準価額の計算、開示資料作成等の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
( 投信会社)	( 95)	(1.04)	
( 販売会社)	( 95)	(1.04)	
( 受託会社)	( 7)	(0.08)	
(b) 売買委託手数料	24	0.26	(b) 売買委託手数料＝ $\frac{〔期中の売買委託手数料〕}{〔期中の平均受益権口数〕} \times 10,000$ 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
( 株式)	( 23)	(0.25)	
( 投資証券)	( -)	( -)	
( 新株予約権証券)	( -)	( -)	
( 先物オプション)	( -)	( -)	
( 投資信託受益証券)	( 1)	(0.01)	
(c) 有価証券取引税	7	0.08	(c) 有価証券取引税＝ $\frac{〔期中の有価証券取引税〕}{〔期中の平均受益権口数〕} \times 10,000$ 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
( 株式)	( 7)	(0.08)	
( 投資証券)	( -)	( -)	
( 新株予約権証券)	( -)	( -)	
( 先物オプション)	( -)	( -)	
( 投資信託受益証券)	( 0)	(0.00)	
(d) その他費用	78	0.85	(d) その他費用＝ $\frac{〔期中のその他費用〕}{〔期中の平均受益権口数〕} \times 10,000$ 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る費用 印刷費用は、交付運用報告書等の作成・印刷・送付に係る費用、及び信託財産計理業務に係る費用 その他は、金銭信託への預入金額に対する手数料
( 保管費用)	( 53)	(0.58)	
( 監査費用)	( 4)	(0.04)	
( 印刷費用)	( 21)	(0.23)	
( その他)	( 0)	(0.00)	
合計	306	3.35	

(注1) 期中の費用(消費税にかかるものは消費税を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。  
なお、売買委託手数料、有価証券取引税及びその他費用は、当ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注2) 各比率は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

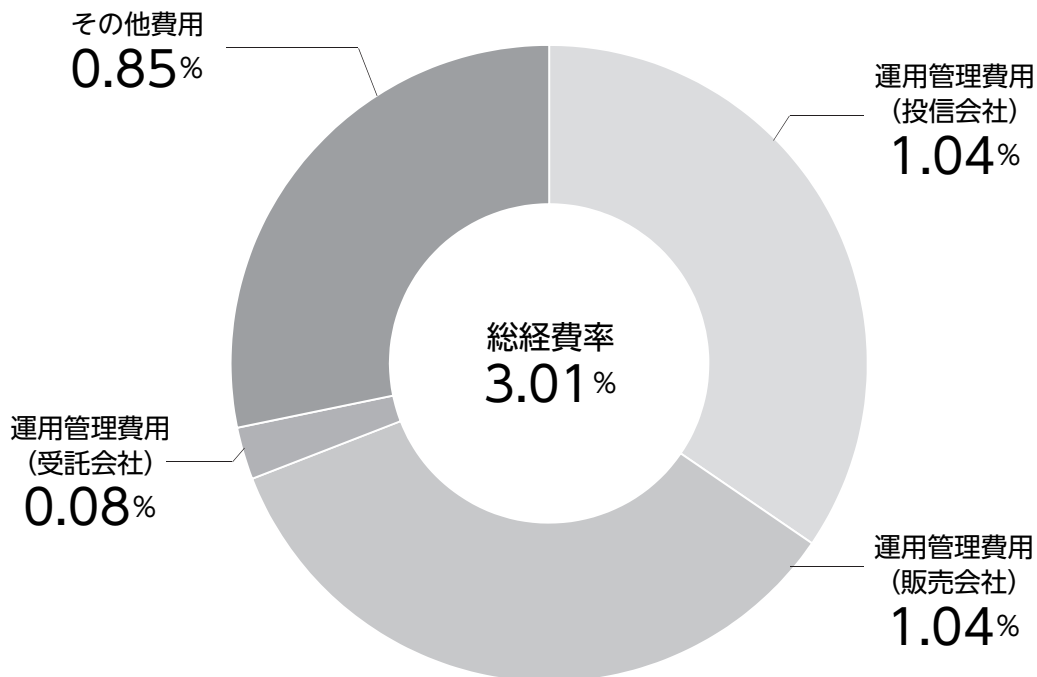
(注3) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入しております。

(注4) -印は該当がないことを示します。

(参考情報)

総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は3.01%です。



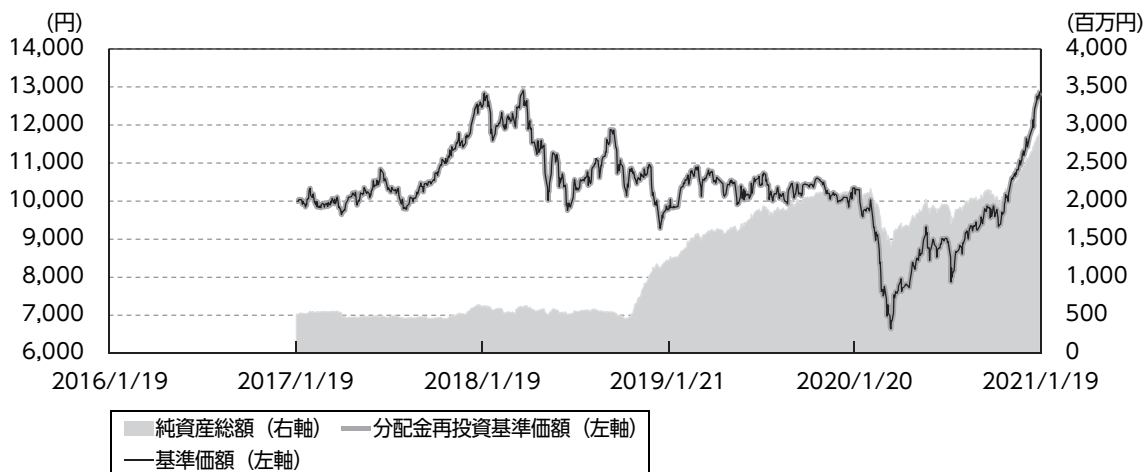
(注1) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

## ☆最近5年間の基準価額等の推移



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 設定日の基準価額は当初設定価額を、純資産総額は当初設定元本額を表示しております。なお、当期末においてファンド設定日（2017年1月20日）から5年に満たないため、設定時を起点として計算しております。

(注3) 分配金再投資基準価額は、10,000の値を基準価額に合わせて指数化しています。

	2017年1月20日 設定日	2018年1月19日 決算日	2019年1月21日 決算日	2020年1月20日 決算日	2021年1月19日 決算日
基準価額 (円)	10,000	12,464	9,785	10,354	12,676
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	200
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	24.6	△21.5	5.8	24.4
純資産総額 (百万円)	513	618	1,222	2,189	2,840

※騰落率は1年前の決算応答日との比較です。設定日の基準価額および純資産総額には、当初設定価額、当初設定元本額を用いております。

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数などは設定しておりません。

## ☆投資環境

(期初2020年1月21日～期末2021年1月19日)

本ファンドの期末である2021年1月19日のベトナムVN株価指数は1,131.00でしたが、期初の前日である2020年1月20日の978.63と比較すると、当決算期のベトナムVN株価指数は15.6%の上昇でした。

この様に一年を通して見るとベトナムVN株価指数は上昇しましたが、期初から2020年3月末にかけては30%超下落し、そこから2021年1月19日まで70%超上昇するというV字型の相場展開でした。

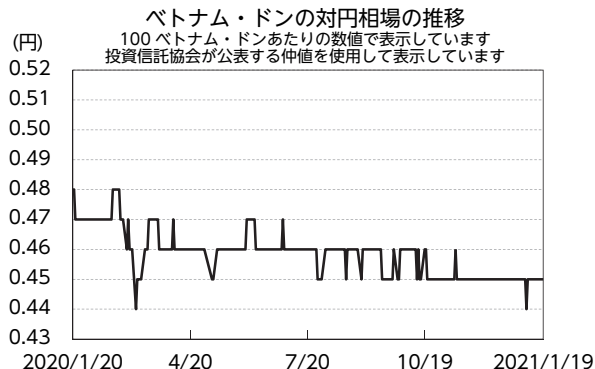
2020年3月末までは、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡がりによって世界中の経済活動が大きな打撃を受け、それを反映して世界各地の株式市場が下落しましたが、ベトナム株式市場も例外ではありませんでした。

その後、世界レベルでは新型コロナウイルス感染拡大には歯止めが掛からなかったものの、世界中で大幅な金融緩和策が取られたことから、世界の主要株式市場は4月より回復基調となりました。また、ベトナム政府は早期に国境を封鎖し、徹底的な感染対策をベトナム全土で展開した事が効を奏し、累計の感染者数を極めて限定した人数に押さえ込むことに成功しました。ベトナム株式市場は、4月より回復基調となり、期末の2021年1月19日には2020年3月末に比較すると大幅に上昇した水準となりました。





本ファンドの期末である2021年1月19日のベトナム・ドンの対円相場（100ベトナム・ドンあたり、投資信託協会発表）は0.45でしたが、これは期初前日の2020年1月20日の0.48と比較すると6.3%の下落でした。期中のベトナム・ドンは、2020年3月にかけて0.44まで下落した後、6月にかけて0.47まで上昇に転じましたが、2021年1月にかけては再び下落して0.45で期末を迎えました。ベトナムは為替管理にベトナム・ドンの対ドルのレートを基準とする管理フロート制を採用していることから、期中のベトナム・ドンの為替相場の動きはドル・円レートの動きに近い動きでした。



## ☆当該投資信託のポートフォリオ

### <ベトナム・ロータス・ファンド>

当ファンドは、主要投資対象の「ベトナム・ロータス・マザーファンド（以下、マザーファンドといいます。）」受益証券の組入比率を通常の状態でも高位に維持することを基本としました。当ファンドは、マザーファンドを通じて、主としてベトナムの取引所に上場しているベトナム株式、ならびに世界各国・地域（日本を含む）の取引所に上場しているベトナム関連企業の株式等に投資する戦略で運用を行う事を基本としているため、基準価額はマザーファンドの運用成果の影響を大きく受けました。

### <ベトナム・ロータス・マザーファンド>

期を通して、ベトナム株式市場に上場する個別株式への投資を中心として、運用を行っております。流動性の高い大型株への投資を主体としましたが、中小型株への投資も銘柄を厳選して行っております。新型コロナウイルス感染拡大のために今期はベトナム企業との直接面談による投資対象企業調査が出来ませんでした。それに変わりベトナム現地の有力証券会社との緊密な連絡を心がけ、銘柄選択精度の更なる向上を目指しました。

## ☆当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数などは設定しておりません。

## ☆分配金

分配金額は、経費控除後の利子・配当等収益、基準価額水準等を考慮して以下の通りとさせていただきます。なお、収益分配に充てず信託財産内に留保した利益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。

(1万口当たり・税引前)

項目	第4期	
	2020年1月21日~2021年1月19日	
当期分配金 (円)	200	
(対基準価額比率) (%)	(1.55)	
当期の収益 (円)	200	
当期の収益以外 (円)	-	
翌期繰越分配対象額 (円)	4,144	

(注1) 「当期の収益」及び「当期の収益以外」は、円未満を切り捨てて表示していることから、合計した額が「当期分配金」と一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

## ★今後の運用方針

### <ベトナム・ロータス・ファンド>

当ファンドは、主として、ベトナム・ロータス・マザーファンドの受益証券を通じて、ベトナムの取引所に上場しているベトナム株式、ならびに世界各国・地域(日本を含む。)の取引所に上場しているベトナム関連企業の株式等に投資することにより、信託財産の成長を目指した運用を行います。

### <ベトナム・ロータス・マザーファンド>

当ファンドは、今後も従来の運用方針を継続します。主として、ベトナムの取引所に上場しているベトナム株式、ならびに世界各国・地域(日本を含む。)の取引所に上場しているベトナム関連企業の株式等を投資対象とし、銘柄選択は、企業収益の成長性・財務健全性・流動性などを勘案して柔軟に行います。また、投資するベトナム株式には、当該株式の値動きに連動するETF(上場投資信託)も含まれます。株式の組入れ比率は原則として高位を保ち、外貨建て資産については、原則として為替ヘッジを行いません。この運用方針に則り、信託財産の成長を目指し運用を行います。

今後とも引き続きご愛顧を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

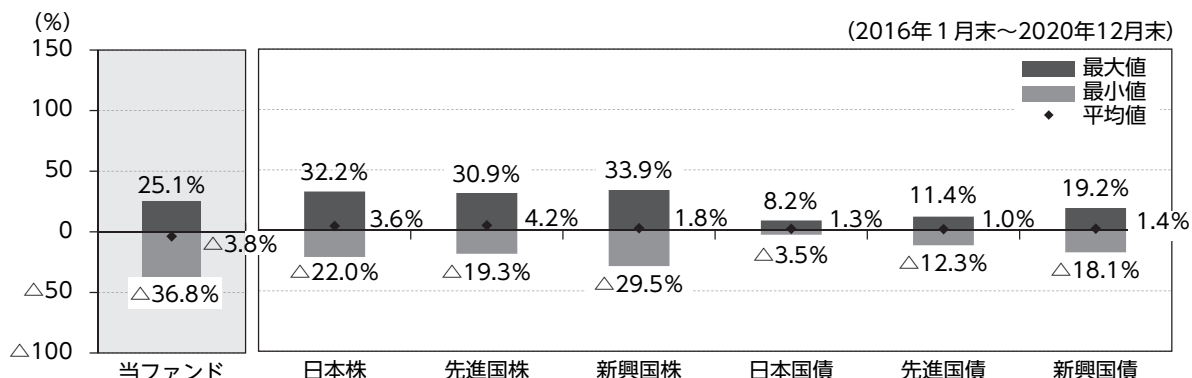
## ★お知らせ

該当事項はございません。

## ★当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	2017年1月20日から2027年1月19日	
運用方針	マザーファンドの受益証券を通じて、主としてベトナムの取引所に上場しているベトナム株式、ならびに世界各国・地域（日本を含む）の取引所に上場しているベトナム関連企業の株式等に投資することにより、信託財産の成長を目指した運用を行います。	
主要投資対象	ベトナム・ロータス・ファンド	以下のマザーファンドの受益証券を主要投資対象とします。
	ベトナム・ロータス・マザーファンド	主としてベトナムの取引所に上場しているベトナム株式、ならびに世界各国・地域（日本を含む）の取引所に上場しているベトナム関連企業の株式を投資対象とします。
運用方法	主にマザーファンド受益証券に投資します。 主としてベトナムの取引所に上場しているベトナム株式、ならびに世界各国・地域（日本を含む）の取引所に上場しているベトナム関連企業の株式を投資対象とします。 銘柄選択は、企業収益の成長性・財務健全性・流動性等を勘案して柔軟に行います。 組入外貨建資産については、原則、為替ヘッジは行いません。	
組入制限	ベトナム・ロータス・ファンド	マザーファンドの受益証券への投資割合には制限を設けません。 株式への実質投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。
	ベトナム・ロータス・マザーファンド	株式への投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
分配方針	年1回（原則として1月19日。ただし、休業日の場合には翌営業日とします。）決算を行い、原則として次の通り分配を行う方針です。 ①原則として毎計算期末に分配原資の範囲内で委託会社が基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して収益分配金額を決定し、収益の分配を行います。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わない場合があります。 ②分配対象額は、経費控除後の利子・配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等とします。 ③収益分配に充てず信託財産内に留保した利益については、特に制限を設けず、運用の基本方針に基づき運用を行います。	

## ★代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(注1) 当ファンドについては2018年1月～2020年12月(5年未満)、他の代表的な資産クラスについては、2016年1月～2020年12月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値、最大値、最小値を表示したものであり、決算日に対応した数値とは異なります。

(注2) 当ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されておりますので、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なります。

(注3) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注4) 騰落率は小数点第2位を四捨五入しております。

(注5) 各資産クラスの指数

**日本株：TOPIX (配当込み)**

TOPIXとは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの指数値及びそこに含まれるデータの正確性、完全性を保証するものではありません。東京証券取引所はTOPIXの算出もしくは公表方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

**先進国株：MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)**

MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

**新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)**

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

**日本国債：NOMURA-BPI国債**

NOMURA-BPI国債とは、野村証券株式会社が発表している我が国の代表的な債券パフォーマンスインデックスで、国債のほか、地方債、政府保証債、金融債、事業債および円建外債等で構成されており、ポートフォリオの投資収益率・利回り・クーポン・デュレーション等の各指標が日々公表されます。NOMURA-BPI国債は野村証券株式会社の知的財産であり、当ファンドの運用成果等に関し、一切責任ありません。

**先進国債：FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)**

FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合投資収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数に関する著作権、商標権、その他知的財産権はすべてFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

**新興国債：FTSE新興国市場国債インデックス (円ベース)**

FTSE新興国市場国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、主要新興国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数に関する著作権、商標権、その他知的財産権はすべてFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

※ 先進国株ならびに新興国株については米ドルベースのため、Bloomberg L.P. (ブルームバーク・エル・ピー) が提供する円換算の指数を表示しております。

## ★当該投資信託のデータ

### ☆当該投資信託の組入資産の内容

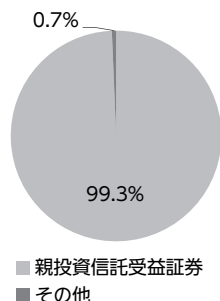
#### ○組入ファンド

ファンド名	当期末
	2021年1月19日
ベトナム・ロータス・マザーファンド	99.3%
その他	0.7%
組入銘柄数	1 ファンド

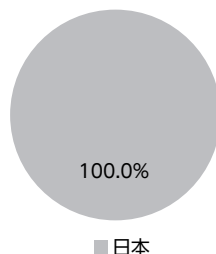
(注1) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

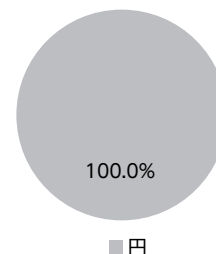
#### ○資産別配分



#### ○国別配分



#### ○通貨別配分



(注1) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する評価額の割合、国別配分の比率は組入証券評価額に対する評価額の割合です。

(注2) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

### ☆純資産等

項目	当期末
	2021年1月19日
純資産総額	2,840,773,166円
受益権総口数	2,241,146,375口
1万口当たり基準価額	12,676円

(注) 当期間中における追加設定元本額は604,317,790円、同解約元本額は478,281,879円です。

## ☆組入ファンドの概要

### ベトナム・ロータス・マザーファンド (2020年1月21日～2021年1月19日)

#### ○基準価額の推移



(注) 設定日の基準価額は設定価額を記載しております。

#### ○1万口当たりの費用明細

(2020年1月21日～2021年1月19日)

項目	
(a) 売買委託手数料	26円
(株式)	( 25)
(投資信託受益証券)	( 1)
(b) 有価証券取引税	8
(株式)	( 8)
(投資信託受益証券)	( 0)
(c) その他費用	59
(保管費用)	( 59)
(その他)	( 0)
合計	93

(注) 1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のもので、4ページ(1万口当たりの費用明細)の項目の概要および注記をご参照ください。

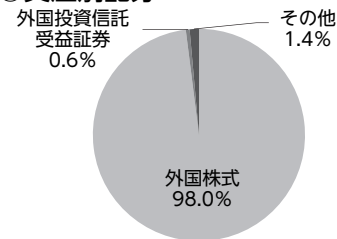
#### ○組入上位10銘柄

順位	銘柄名	通貨	組入比率
1	ホアファットグループ	ベトナム・ドン	6.4%
2	デジワールド・コーポレーション	ベトナム・ドン	5.3%
3	ホーチミン市住宅開発商業銀行	ベトナム・ドン	4.8%
4	サイゴン商信株式商業銀行	ベトナム・ドン	4.2%
5	ベトナム産業貿易商業銀行	ベトナム・ドン	4.1%
6	ベトナム外商銀行	ベトナム・ドン	4.1%
7	サイゴン証券	ベトナム・ドン	4.0%
8	ドンハイ・オブ・ベンチャー	ベトナム・ドン	4.0%
9	ピンググループ	ベトナム・ドン	3.8%
10	キンバックシティグループ	ベトナム・ドン	3.6%
組入銘柄数		49銘柄	

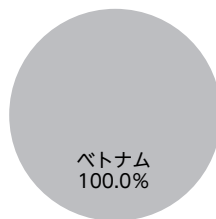
(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

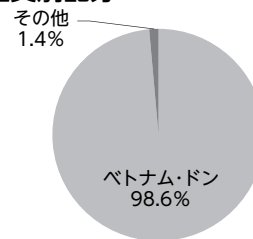
#### ○資産別配分



#### ○国別配分



#### ○通貨別配分



(注1) 上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは2021年1月19日現在のものです。

(注2) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する評価額の割合、国別配分の比率は組入証券評価額に対する評価額の割合です。